

令和3年度 第2回千歳市総合教育会議 議事録

▼日 時：令和3年12月17日（金）15：25～16：40

▼会 場：千歳市役所第2庁舎会議室5・6

▼出席者

（構成員）市長	山口 幸太郎
教育長	佐々木 智
教育長職務代理者	佐々木 義朗
教育委員会委員	荒井 由紀恵
教育委員会委員	橋場 正人
教育委員会委員	杉本 功
（教育部）教育部長	千田 義彦
教育部次長	村井 安之
学校指導室長	椿野 次雄
企画総務課長	浅野 浩司
学校教育課長	中島 肇
学校指導課長	桂川 淳
企画総務課総務係長	阿部 健
（事務局）企画部長	品田 雅俊
企画部次長	小尾 千智
企画課長	澤田 篤
企画課企画調整係長	荒川 綾
企画課企画調整係主任	西島 圭介

▼内 容

○品田企画部長

定刻より少し早いですが、皆様お集りいただきましたので始めさせていただきます。

本日は、お忙しいところ、お集まりいただきまして、誠にありがとうございます。

私は、企画部長の品田でございます。本日の進行を務めさせていただきますので、どうぞよろしくお願いいたします。

会議開催前に1点ご報告申し上げます。

1期4年に渡り教育委員を勤められた吉村恭子様、令和3年9月30日で任期満了により退任されています。新たに杉本功様が就任されていることをご報告いたします。

杉本様、どうぞよろしくお願いいたします。

ただいまから、令和3年度第2回千歳市総合教育会議を開催いたします。それでは、ここで本会議の議長であります山口市長からご挨拶をお願いいたします。

○山口市長

皆様お集まりいただき、ありがとうございます。

本年2回目の総合教育会議になりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

ただいまご紹介にありましたように、杉本委員が新たに就任されましたので、どうぞよろしくお願いいたします。

本日の議題は、「令和3年度全国学力・学習状況調査の結果」と「学力向上の取組」についてであります。皆様、忌憚のない意見を交換して、活発な会議にしていいただければと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

○品田企画部長

ここからの会議の進行につきましては、事務局が進めさせていただきます。

これより本日の議題に入ります。

1点目、「令和3年度全国学力・学習状況調査の結果」について、学校指導課長から説明をお願いいたします。

○桂川学校指導課長

「令和3年度全国学力・学習状況調査の結果」について、説明いたします。

(資料に基づき、「令和3年度全国学力・学習状況調査の結果」について説明。)

○品田企画部長

ただいま、説明がありましたが、この件につきまして、意見交換をお願いいたします。

○佐々木教育長職務代理者

今の説明を受けまして、千歳市としては、令和元年度調査よりも全国に少し近づいたことがわかりました。

千歳市の児童生徒に、義務教育で求めている学力をつけるため、留意していることがあれば教えてください。

○桂川学校指導課長

児童生徒が9年間の学びをしっかり積み上げて、義務教育を終えた時に選択肢のある生き方ができるように、学力の保障をしていくことの大切さを、千歳市の教員と共有し、教員の課題意識を向上させることに留意しています。そのためには、各校の校長、教頭と教育委員会が連携して、学力を大切にする学校づくりの基盤を支え、管理職の推進力を支援していくことを継続しております。

また、千歳市では「小中一貫・連携教育の推進」に取り組んでおります。9年間の義務教育のゴールに向けて日々の教育を推進し、着実に学力を身につけてもらうことを大事な視点と捉えております。

○荒井委員

小中ともに、国語の「読むこと」で低下傾向があると記述されています。「読むこと」は、どの教科でも基本となるものですし、社会に出ても必要な資質と感じます。問題文も掲載いただきましたが、どんなことをすれば「読む力」はついていくと考えているのでしょうか。

○桂川学校指導課長

本年度の学力調査では、夏目漱石の文章が出題されました。過去にも夏目漱石の文章が出題されたことがあるのですが、現代の生徒にとっては、ほぼ古文のように感じさせる文体です。「読む力」を育てるためには、義務教育年代で様々な文種（詩・俳句・短歌・物語・説明文・古文など）に意図的に出会わせること、良いものに触れる機会を創出することが必要と感じます。

また、「読む力」を育てるためには、読むだけではなく日々「書くこと」も必要です。児童生徒は、SNSなどで短い言葉、つぶやきなどを発信することに長けているように感じます。しかしながら、論を構成し、伝えたいことを整った日本語で書くという力は、義務教育の中でこそ育てたいところです。実際に、例えば60字から80字で書くトレーニングを積み重ねている小学校もあります。今後も、日本語や語彙力の大切さを伝えていきます。

○荒井委員

今の子どもたちは、SNSの文章のような横書きに慣れており、縦書きに慣れていないため、新聞を読むことや読書から離れてしまっている側面もあると思います。縦読みと横読みについて、学校現場で感じることはありますか。

○桂川学校指導課長

今の荒井委員の意見を聞き、もしかしたら現在は、学校教育の場でしか縦書き・縦読みを学ぶ機会が無いのかもしれないと思いました。学校の先生方は、児童生徒は学校の授業の中でこそ縦書き・縦読みを習得することができるということについて、これまで以上に意識するようにすると良いと感じます。

○橋場委員

資料8ページに記載されている小学校の算数の問題を見て、ただ答えを出すのではなく、なぜそのような答えになるのか、記述する問題が出されていましたが、毎日の算数や数学の授業では、このような問題を解く力をつけるために、どんな工夫をされているのでしょうか。

○桂川学校指導課長

千歳市独自に配置している学習支援員を活用し、算数・数学の授業で、習熟度別少人数指導を実施しています。到達度に応じ児童生徒を複数のグループに分けて、個別最適な学びと協同的な学びを一体的に組み合わせて、授業改善に努めているところです。

一問一答で答えを出す力もちろん必要ですので、基礎的なベースを作ることも少人数指導の中で実施していますが、加えて、「なぜこの解答になるのか」「どう考えたらよいのか」などを、説明したり発表したり記述したりなどすることで、個人の考えを集団で共有

する時間の確保にも努めています。

また、算数、数学の時間だけでなく、教科、特別活動などの時間の中で言語活動に取り組むことで、記述する力を伸ばすことにもつながると思っています。

○杉本委員

教育委員会の学校への指導や現場の先生方の取組により、多くの児童生徒が成長していることと思う一方で、「読むこと」への課題があることは大きな問題だと感じます。読むことができなければ、書くこともできず、他の教科である算数・数学にも影響がでることと思います。

「読む力」をつけるためには、先ほど学校指導課長からの話にもありましたように、様々な文種に慣れ親しみ読み解くことに加えて、短い文を読み取る力を養うことが重要であり、汎用性のある読解力を伸ばすような取組を授業に取り入れると良いと思います。

○佐々木教育長職務代理者

来年度の全国学力・学習状況調査の時期は新年度が明けてすぐかと思っています。児童生徒の頑張りや、それを支える先生方の日々のご努力にエールを送りたいところです。現在、教育委員会として実際にどんな支援をされているか、教えてください。

○桂川学校指導課長

来年度の全国学力・学習状況調査は、4月19日（火）に実施予定となっております。今年度は5月に実施されましたが、来年度は例年通り4月の予定です。

各小中学校におきましては、今年度の調査が終わった段階で、現状の成果や課題を捉え、学力向上に向けた取組を始めております。

教育委員会としても、来年度の学力・学習状況調査の対象となる小学5年生と中学2年生を対象に、国語と算数・数学、理科について問題を作成し、冬や春の長期休業や週末の課題として取り組むよう、各校に伝えております。

とくに中学校の問題作成にあたっては、国語科・数学科の教諭が担当しており、教諭自身の研修にもつながっております。

毎月実施している校長会議や教頭会議の中でも、学力向上に関わる研修を定期的に行い、各校の底上げが図られるよう情報交換を行うことも心がけています。

○佐々木教育長

学力・学習状況調査は全国的な調査で毎年数字が公表されており、今年度の千歳市の結果としては、前回調査と比較して、小学生は低下傾向、中学生は改善となりました。2年前の調査結果としては、前回調査と比較して、小学生が改善、中学生は低下傾向で、今年度と逆の結果となっており、年度ごとの結果に波がある調査であることが見受けられます。

結果により算出された客観的な数字を分析して、教育委員会、学校現場へどこまでフィードバックできるかが課題であると考えています。

○品田企画部長

他にご意見はありませんか。

他にご意見などないようですので、議題の1点目「令和3年度全国学力・学習状況調査の結果」につきましては、報告済みとさせていただきます。

続きまして議題の2点目「学力向上の取組」について、学校指導課長から説明をお願いいたします。

○桂川学校指導課長

「学力向上の取組」について説明いたします。

(資料に基づき、「学力向上の取組」について説明)

○品田企画部長

ただいま、説明がありましたが、この件につきまして、意見交換をお願いいたします。

○橋場委員

千歳市学力向上検討委員会が、千歳市の児童生徒の学力向上のために様々な力を尽くしていることが伝わってきました。その委員会は、どんな構成メンバーでしょうか。また、モデル校に指定された学校に共通して見られる成果などがあれば教えてください。

○桂川学校指導課長

千歳市学力向上検討委員会は、学校指導課の5名が事務局となっております。その内、学校教育主事3名は経験を重ねた退職校長であり、千歳市の教育に理解のある方々で、データの分析、情報の整理、指導助言など、大きな役割を果たしております。

また、モデル校に指定している小学校2校、中学校1校から選出していただいた、それぞれの学校の校長、教頭、学力向上担当者が構成メンバーとなっております。

モデル校に指定された学校は、現状分析、それを踏まえた取組を教職員全体で取り組むなど、学力向上へさらに緊張感を高めて臨む機会を得られます。モデル校指定は2年間ですので、取組の経過を職員全体で見つめる環境を得られるのもモデル校の良さとなります。また、モデル校指定終了後も、取組を行ったことは学校の財産として残ることとなり、例えば祝梅小学校は2年間のモデル校指定期間の終了後も、新聞を利用した学びの取組を継続して行っています。これらの成果がモデル校に指定された学校に共通してみられることとなります。

○杉本委員

モデル校の取組について、とても良い取組であると感じました。その中で特に、祝梅小学校の新聞を利用した学びに関心を持ちました。先ほども、読むことの課題についての話がありましたが、このような活動を行うことで読む力と書く力を養うことができると思います。

新聞を利用した学びの取組の中で、60字以内で記入させる問題を出題させていますが、どのような狙いがあるか教えてください。また、祝梅小学校の成果はいかがでしょうか。

○桂川学校指導課長

令和3年度全国学習状況調査から、「新聞をほとんど、またはまったく読まない」千歳市の小学生は73.8%（全国70.4%）であり、「新聞をほとんど、またはまったく読まない」千歳市の中学生は79.6%（全国76.7%）という状況になっております。新聞を定期的に購読するご家庭も少なくなっているのかと想像しますが、新聞が目の前にあってもなかなか児童生徒は手にしない、という現状があるものと捉えております。

そのような背景がある中で、祝梅小学校では、意識的に新聞を読む機会を創出することを目的として、この取組を始めました。

全国学力調査や道立高校入試問題などでは、マス目の中に、条件に沿って、記述する問題が出題されることが多く、例えば、令和3年度の道立高校国語問題では、「105字程度で説明しなさい」という問題が出題されています。祝梅小学校では、新聞を読み、条件に沿って字数指定された中で書くという経験を重ねることで、国語力の向上を図っています。

祝梅小学校の成果としては、学習状況調査の結果によると、国語の正答率が、全国を100としたとき、2年前の前回調査81.5から、令和3年度94.3となり、12.8ポイント上昇しております。

○杉本委員

モデル校としての取組を一般化して継続していくことはとても良いと感じました。

ただ、資料によると、朝の短い時間の中での取組ということですが、授業の中でもじっくり取り組む時間を設けることで、より学びの充実が得られるのではないかという感想を持ちました。

○桂川学校指導課長

仰っていただいたように、15分程度の朝の時間では、児童生徒によっては用意した全ての問題を解く時間が無いなど、難しい部分もあるため、上手く時間を活用しながら授業の中でも取り上げることを検討していきたいと思っております。

○荒井委員

中学校での「手帳」配付について、この世代で見通しをもって自分の取組を把握し、実践し、振り返って、また次につなげるということは、自己管理能力の育成につながるものと思っております。

また、千歳中学校の取組である「Myゴール手帳」を含めたPTA活動が、先月東京で開催された日本PTA全国協議会の会長表彰を受け、全国的にも評価されたことはとても素晴らしいと思っております。

配付された手帳へ生徒が記入することを習慣化させるために、学校ではどのような工夫をされていますか。

○桂川学校指導課長

生徒へ手帳を配付する際に、手帳の価値付けを行うことが重要であると考えています。自己管理能力を育成することが、成長につながる有益なものであることを、事前に生徒に伝え、価値付けをした上で手帳を利用することにより、記入の習慣化につながるものと考えております。

さらに、各自自由に利用するという指示では定着や習慣化は難しいと考え、帰りの会前の8分間を記入時間として、集中して記入する時間を生み出すよう工夫しています。

また、記入したページを生徒同士で交流し、書き方を相互に学び合う時間を設定しております。

手帳には、保護者からの励ましのメッセージをページ毎に欄外に記載してあり、保護者も一緒になり手帳の作成に携わっていることを示し、生徒がより能動的に取り組むことができるように構成の工夫もしています。

○佐々木教育長職務代理者

保護者からの励ましのメッセージの話がありましたが、「家庭との連携」という視点は、学力向上に向けて大切であるという認識を改めてしたところです。現代社会は、SNS、携帯電話が定着し、帰宅後も友達とつながっている小中学生が多い現状と思いますが、その中で学習への思いを確かなものにするため、学校現場ではどのようなことに取り組んでいるでしょうか。

○桂川学校指導課長

SNSの定着は、仲間同士をより近づける手段になると同時に、家庭に帰っても学校での関係性が継続することとなり、様々なことへの配慮や、問題に対応することが必要となります。トラブルのない適切なSNS利用の仕方を児童生徒だけでなく、保護者にも啓発するなど、情報モラル教育にも一層取り組んでいるところです。

「家庭との連携」のためには、様々な経験や出会いを保障し目の前の児童生徒の視野を広げることや、基礎学力もしっかりと保障することを念頭に置いて、各校が取り組むことが重要であると考えます。そのようにして児童生徒を成長させることにより、保護者の視点を柔軟なものにし、様々な形での「家庭との連携」につながるものと考えております。

学校指導課としては、「教師が見えているもの、周りの大人が見えているものが、児童生徒が見つめるものになる」と考えており、児童生徒の前に立つ教員自身の経験値や視野の広がり大切に捉えています。そのための研修の機会や管理職への支援を今後も継続してまいります。

○椿野学校指導室長

家庭との連携について補足で説明いたします。

平成27年度に、千歳市PTA連合会が中心となり、「千歳市家庭生活宣言」として具体的な家庭生活目標を定めたものを表明しており、例えば、家庭での学習時間を学年×10分+10分の目標とすることや、「早寝早起き朝ごはん」をからだづくりの目標として、各家庭で目標に向けて実践することで一定程度の成果が出てきています。

さらに、スマートフォンの使用時間やゲーム時間などを2時間以内とし、21時以降は使用しないという目標設定や、スマートフォンを寝室に持ち込まないよう呼び掛けを行いました。その結果としては、令和3年度全国学力・学習状況調査において、6年生の53%は2時間以上の使用時間で全国と比較して8%多く、中学3年生になると68%が2時間以上の使用時間で全国と比較して11%多い結果となったため、使用時間の短縮に向けて、改めて家庭と一緒に連携して取り組んでいけたらと思っています。

○杉本委員

学習者用コンピュータが、授業での利活用で定着していることが伝わってきました。今年の秋には中学校で一人1台端末も実現し、いよいよ来年度には小学校でも実現するものと伺っております。ICT機器の利用で、学力向上に直結すればと願うところですが、どのように考えていますか。

○桂川学校指導課長

学習者用コンピュータについては、児童生徒の文具の一つとして使用することを国からも発信されております。この文具を上手に利用することで、「個別」でも「集団」でも学びが深まると考えております。

授業の中でICT機器の使い方を教えることを目的とするのではなく、これまでの授業の手法に加えてICT機器も併用して使うことで、授業の目的を達成し、児童生徒に必要な資質能力を上げていくことが何より大事であると考えています。例えば、中学校では50分の授業の中で、実際に学習者用コンピュータを使用した時間は10分程度であったという研究資料もあり、授業のすべてでコンピュータを使用するわけではなく、文具の一つとして使用することで効率良く学びが深まり、ICT機器の活用と学力向上が相互に連携して推進していく形が理想として捉えていますので、その方針について、今後も各校に伝えてまいります。

○椿野学校指導室長

児童生徒用のデジタル教科書については、令和6年度に小学校の教科書が刷新されるタイミングで導入すると予想しています。中学校の教科書については、令和7年度にデジタル教科書を導入する予想をしていましたが、先日、来年度の令和4年度より一部教科についてデジタル教科書を導入すると文科省が発表したところです。

○荒井委員

デジタル教科書が導入された後は、紙の教科書は無くなるのでしょうか。

○椿野学校指導室長

国としてもまだはっきりと明言はしていませんが、例えば、小学校低学年はデジタル化となっても紙が必要ではないかという意見があります。一方で、中学生以上は紙を併用して使っていくことは考えづらいと思いますが、実証しながら決まっていくことと思います。

○佐々木教育長

本日の議題の中でもICTのお話がありましたように、本年度は中学校において一人1台の学習者用コンピュータの整備を行い、来年度は小学校での整備を予定しています。

ICT機器の導入前から考えると、ICT環境の整備はとても早いスピードで推進しており、ICT機器の活用で様々なことが効率化されることによって時間的な短縮となり、とても良い効果があると思います。コロナの影響により物事のオンライン化が進みましたが、一方で、オンラインのコミュニケーションのみではなく、実際に人と会って物事を進めていくことも重要であると感じており、それらをどう組み合わせていくかが大きな課題であると考えます。

学力向上の取組としては、千歳市学力向上検討委員会によるモデル校の取組など、様々なことを実施しておりますので、モデル校以外の学校においても、その取組を参考にしながら、学校の特性にあった形で推進していただければ良いと思います。

新型コロナウイルス感染症の感染状況は収束傾向にあります。また5年生以下の児童はワクチン接種をしていませんので、引き続き感染防止対策を行いながら、教育委員会として様々な取組を実施していきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

○品田企画部長

委員の皆様から、ほかに何かございませんか。

それでは、議題の2点目「学力向上の取組について」は、報告済みとさせていただきます。

以上をもちまして、本日の議題はすべて終了となります。

次に、次第の「4 諸連絡」についてであります。今年度の会議は、これで終了となります。

来年度の会議につきましては、第1回会議を5月頃に、第2回会議を11月頃に開催する予定です。このほか、緊急に開催する必要があると認められる案件が発生した場合は、随時開催いたしますので、よろしくお願いいたします。

以上をもちまして、令和3年度第2回千歳市総合教育会議を終了いたします。

○山口市長

本日はありがとうございました。